

隠岐の島デジタル世代によるコミュニティデザイン事業

隠岐の島町は、国土交通省国土政策局離島振興課の「スマートアイランド」事業に参加し「デジタル世代によるコミュニティデザイン」の活動を通して、全国に横展開できる教育実践の実験とその検証を行っています。

この事業では、人と ICT 技術の両輪を小学校、中学校、高等学校の正規の授業を通して、「教育」と「ふるさとづくり」の融合を進めています。

スマートアイランドの目標は、デジタル技術を通じた島内外と繋がりをつくることで、子どもたちに隠岐の島をふるさととして深く認識してもらうこと、ふるさとづくりに参加することで、島への愛着を深めるとともに、これからのまちやのすがただけでなく、将来のキャリアを考えてもらうきっかけとなることです。

オンラインを活用して島外の人と繋がる、リアルとオンラインの「ハイブリッド授業」



(隠岐高校)
立命館大学の先生に学ぶ仮想空間
図書館をメタバースで再現しました



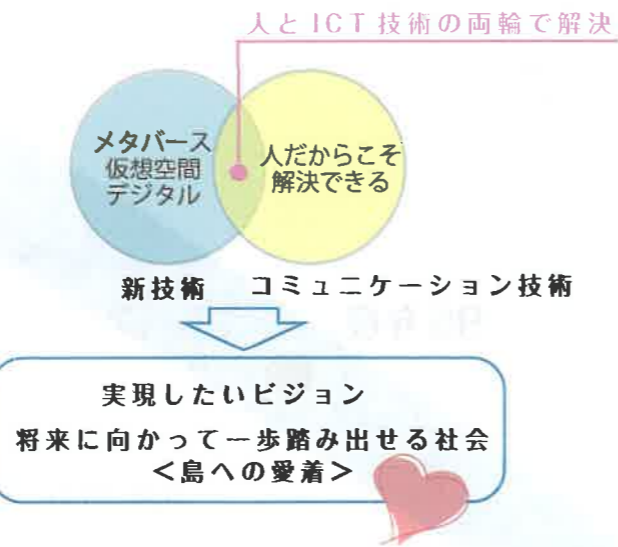
(西郷小学校)
自分達の考えをまとめ
オンラインで島外のひとへ発表



(西郷中学校)
将来の隠岐の島にとって
港の近くにどんな機能がよいか思案中



(西郷小学校)
授業の感想をタブレットを使って入力
⇒その場で集計されてビックリ!



おとなも、子どもも、タブレットや仮想空間を活用して、まちの拠点に集まれるよう Wi-Fi やパソコン環境を整備します。(今年度はビューポートの 2 階に設置します) 来年度からはまちなかに整備予定の「まちづくり拠点」に機能を移し、家と学校以外で、友達と勉強したり、話したりできる空間をつくります。この拠点では、高校生が中学生に教えたり、小学生に教えたりと、学びのつながり・循環を実現します。

西郷港周辺まちづくり プロジェクトニュース

海とまちをつなぎ、世代をつなぐまちづくり

西郷港周辺のまちづくりは、国や県との協議、町内外の委員による協議会、地権者の方々を中心としたエリア会、コンペで決まったデザインチームによる基本設計、庁内各課による連携といった様々なステージが同時並行で進行しています。プロジェクトニュースは、まちづくりの全体像をお伝えするニュースレターです。

国土交通省から選出されました

令和 4 年度
まちづくり実践サミットに参加

国土交通省都市局との連携

令和 4 年(2022 年)11 月 28 日(月)、国土交通省都市局は、先進的なまちづくりを実践する 12 都市を選び、東京都千代田区紀尾井町にある都市計画協会を会場に、「令和 4 年まちづくり実践サミット」を開催しました。隠岐の島町も「世代をつなぐまちづくり」を進めるまちづくりが評価されたことで、このサミットに町長と都市計画課長が参加しました。

隠岐の島町が評価された点は、子どもたちがまちづくりに参加し、住民のみなさんと一緒につくりあげた仕様書をもとに全国規模のデザインコンペを実施したこと、また、子どもたちが積極的にまちづくりに参加することを通して、いろいろなことを学ぶ機会となるように、学校と教育委員会と役場が一体となった仕組みづくりを進めていることです。

サミットでは、都市局長の挨拶と岐阜県飛騨市、兵庫県姫路市、新潟県上越市、群馬県前橋市などの事例発表があり、参加した首長間での意見交換も行われました。

隠岐の島町は、離島では唯一の自治体として参加し、全国の進んだまちづくりについて学ぶ貴重な機会となりました。



全国から選ばれた 12 都市の首長による意見交換の様子

国土交通省国土政策局離島振興課との連携

隠岐の島西郷港周辺まちづくりでは、国土交通省国土政策局離島振興課の推進する「スマートアイランド事業」に参加しています。この事業によって、西郷小学校・西郷中学校・隠岐高校の授業で推進している「デジタル世代によるコミュニティデザイン」の試みが「子どもたちによるふるさとづくりとデジタル教育の融合の試み」として高く評価されています。

都市再生整備計画と西郷港周辺地区整備基本計画

平成 30 年から進めてきたまちづくり談義による「西郷港玄関口まちづくり計画」、令和 2 年に完成した「立地適正化計画」、それによる「都市機能誘導」や「居住誘導」の考え方を基礎に、デザインコンペの結果も反映した事業計画である「都市再生整備計画」を作成、国土交通省に提出しました。

今年度中には、事業に対する補助額も決定し、いよいよ、100 年後のまちの姿を見据えた 10 年の「西郷港周辺まちづくり整備基本計画」の第 1 期、5 年間でスタートします。

隠岐の島町インスタグラム
<https://www.instagram.com/okitoshikeikaku/>



役場内の連携や調整を行う
「町内連絡会」で
全体を通して総合的な判断を行っています。



アイノマ協議会のように

最優秀作品「アイノマ」デザインについて
専門家や町内の団体代表などからなる
「アイノマ協議会」のメンバーにより
10年間の事業について検討していきます。

専門家によるデザイン会議を継続的に行い
デザインチームに求めたコンセプトに沿って
進められているか、モニタリングも含めて
助言していきます。

専門家によるアドバイsteamと
町内の団体代表などからなる
デザイン会議のメンバーにより
最終審査が行われました。

デザインコンペは
全国に募集をかけ
42チームの応募がありました

R2年度～ 国へ提出
立地適正化計画策定

専門家や町内の団体代表などの
委員会で将来のまちの骨格等を
検討した計画です。

R2年度

デザインコンペ
仕様書案
作成

デザイナーの方に
どんなことを提案して欲しいのか
こどもから大人まで
学校の授業やワークショップを通じて
話し合いました

西郷港周辺
まちづくり計画
策定
R2年6月

H30年度

H30年度～
まちづくり談義
(11回開催)

スタート

デザインコンペ実施
1次審査
2次審査(公開)

↑
まちの人が誰でも見られるよう
公開展示も行い、小中高の授業でも
作品についての意見交換を行いました。

最優秀賞の
SUGAWARA DAISUKE 設計 JV チームの皆さんによる
検討が始まっています。

- 都市デザイン 上條・福島都市設計事務所
- 建築設計 SUGAWARA DAISUKE 建築事務所
- 都市再生整備計画 臂 徹

↑ 国へ提出
都市再生整備計画は、
立地適正化計画策定が条件となって
次のステップに進む計画です。
10年間で行う都市再生の整備メニューと
その事業費を算出するものです。

地権者さんによる「エリア会」の開催

正確な情報を、地権者のみなさんと共有するため
定期的エリア会を開催しています。

役場は、設計のためのいろいろな条件を整理しています。地権者の方の意向や希望を把握しながら、
どう進めるのがベストか、段取りなども含めて検討しています。

R5年度

スマートアイランド事業により
教育委員会や学校と連携して
授業での学びを深めます

西郷港周辺まちづくり全体の構造や情報をお伝えします。

「プロジェクトニュース」発行

大社分院通りの検討
うみまち通りの検討
など

ワークショップの結果や、
デザインチームが検討している内容を
迅速に戸伝えします。

「デザインニュース」発行

「エリア会ニュース」発行